京都帝国大学における中国人留学生データの解析
── 昭和初期（1927-1937 年）の入学者を中心に ──

周　　一　川

要旨

1930 年代半ばの中国人第三次日本留学ブームの時期に，数多くの高学歴の若者たちが日本にやってきた。日本の帝国大学は中国高等教育機関出身の入学希望者のため，大学院の門戸を開いた（東京帝大）ほか，専攻生制度（九州，東北，北海道，東京帝大医学部）などで対応した。京都帝大は明治時代から規定されていた「外国学生」制度で，中国で高等教育を受けた留学生などを本科で受け入れた。

「外国学生」制度は，京都帝大に特徴的な留学生制度であり，昭和初期に中国で高等教育を受けた者及び旧制一高～八高以外の日本の高校出身の留学生に門戸を開いたのである。「外国学生」は本科生と同じように，本科の科目を勉強し，卒業試験に合格できれば，卒業と同時に学士号も取得することができた。「外国学生」は，「準本科生」と言えるだろう。

京都帝大は，「外国学生」制度で中国人留学生を幅広く受け入れただけではなく，一高特設高等科の卒業生に対しては無試験で受け入れる措置も取っていた。他には，入学後に学生身分を変更した者もよく見られ，特例の入学ケースもあった。京都帝大の制度上の柔軟性は，留学生への対応からもよく見てとることができるのである。

はじめに

帝国大学の留学生についての調査研究は，大学史の編纂から始まり，『九州大学五十年史』（1967 年）や『東京大学百年史』通史二（1985 年）には留学生に関する記述があった。その後，東京帝国大学留学生については所澤潤の資料紹介や研究論文[(1)]が数編あるほか，陳昊の博士論文『近代日本における中国人留学生受け入れに関する研究―明治専門学校 , 東京・九州帝国大学の事例に即して』[(2)]もあった。最近では大里浩秋の「東京帝国大学の中国人留学生関係文書を読む」[(3)]がある。

帝国大学留学生の実態を明らかにした研究としては，折田悦郎等の『九州帝国大学における留学生に関する基礎的研究』；永田英明の「戦前期東北大学における留学生受入の展開―中国人留学生を中心に―」；許晨の「北海道帝国大学の中国人留学生」と「北海道帝国大学における中国人留学生の留学生活」[(4)]などがある。これらの研究により，九州帝国大学，東北帝国大学，北海道帝国大学の中国人留学生の受入れ，実態，特徴の大筋が明らかになった。

拙論「帝国大学における中国人留学生（1927-1937 年）―人数・専攻・類別―」と「帝国大学における中国人女子留学生（1924-1944 年）―データ解読と事例分析―」[(5)]は，昭和初期における七つの帝国大学中国人留学生のデータ分析と女子留学生の実態と特徴を明らかにした。ほかには朱虹・胡雪莹の「近代中国留日医学生档案 ── 日本の六つの帝国大学を中心に ── 」と見城悌治の「日中戦時下におけ

る『華文大阪毎日』誌の中国人向け帝国大学情報」[6]という名簿整理と資料紹介もある。

しかし，京都帝国大学の中国人留学生を総合的に扱った研究はまだ見当たらない。そこで本稿では，1927-1937 年の間に京都帝国大学に入学した中国人留学生を対象として，人数，専攻，身分類別，出身校などを分析し，その全体像に迫ることを試みる。

この研究では名簿の整理が不可欠な作業であるため，筆者はまず「京都帝国大学中国人留学生名簿―昭 2-12（1927-1937）年の入学者―」（以下「名簿」）を作成した。この名簿は，主に日華学会が編纂した 1927-1944 年『留日中華学生名簿』[7]（以下日華学会『名簿』）を使用して作成した。日華学会『名簿』に記録のない卒業年度や，一部しか記録されていない入学情報などについては，『京都帝国大学一覧』[8]（以下『一覧』）のデータを資料の「名簿」に加えてある。1940 年以後の日華学会『名簿』には，「満洲国」の留学生が収録されなくなったため，同年以後の「満洲国」の留学生の内容は，満洲国駐日大使館『満洲国留日学生録』（以下『学生録』）の情報を補足した。

本稿では引用以外は基本的に漢数字をアラビア数字に，元号を西暦とし，旧字は新字とした。

各表とグラフの出典は，表 1 以外はすべて資料の「名簿」によるものである。

一．人数の推移と 1930 年代半ば留学生増加の要因

1927-1937 年の間に京都帝国大学（以下京都帝大）中国人留学生（「満洲国」留学生を含む）の入学人数は，合計 283 名であった。その中には 6 名の転学部者（卒業後他学部に入学した者を含む）がいるので，学科別に統計する際の延べ人数は 289 名となる。

1．各年度の入学人数と総人数

京都帝大は 1903 年から中国人留学生を受け入れ，明治期には 30 名の中国人留学生が京都帝大で学んでいた。大正期に入ると，「五校特約」[9]の第一高等学校（以下一高）などの出身者の入学によって中国人留学生人数は顕著に増加した。日華学会『名簿』を調べると，当時京都帝大に在学していた留学生の出身校はほとんど旧制高等学校（一高～八高）であり，他には高等師範学校，千葉医専などもあった。「五校特約」卒業生の一部が帝国大学に進学していることは，大正後期の帝国大学における中国人留学生増加の主な要因であり，昭和初期に入ってからの数年も京都帝大の中国人留学生総数は 100 名を超えていた。1922 年に「五校特約」が終了してから，帝国大学の入学資格を持つ留学生が急速に減り，京都帝大留学生の入学者数も著しく減少した。総人数も留学生の卒業により，1929 年から急速に減り，1931・1932 年には 50 名以下となったが，1930 年代半ばから留学生は増加に転じ，数年連続在籍留学生人数は 100 名を超えた。

表 1 からわかるように，1936 年に京都帝大に入学した留学生は 61 名に達し，1937 年の在学留学生総数は 147 名で，1930 年代初頭の数倍となった。

表 1　京都帝国大学中国人留学生の総人数と入学人数（1927-1937 年）

	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937
総人数	112	110	65	51	38	41	50	78	110	144	147
入学人数	21	13	14	9	11	12	27	35	45	61	39

出典：①資料の「名簿」。
②拙論「資料編　2 中国人留学生名簿の「目次」」『近代中国人日本留学の社会史』東信堂，2020 年，200，202，205，207，210，217，224，230，235，242，258 頁を参照。原出典：「目次」日華学会編『留日中華学生名簿』・『中華民国満洲国留日学生名簿』昭和 2-12（1927-1937）年。

1934 年後半から 1937 年夏までは中国人日本留学第三次ブームの時期にあたり，1937 年に日本で学ん

でいた留学生在籍総数は約 6000 人（中華民国 4009 人，満洲 1936 人）[10]となっていた。このブームを引き起こした原因[11]は複雑なのだが，一番の要因は円安であった。

また，帝国大学の入学希望者が急増した背景には，この時期に数多くの高学歴である若者が日本にやってきたことがある。

中国で高等教育を受けた入学希望者に対して，各帝国大学は，それぞれの方法で対応していた。東京帝大は大学院生（医学部は専攻生）を，九州，東北，北海道帝大は専攻生として数多くの中国の大学出身者を受け入れた。京都帝大は，それらとは異なり，既存の「外国学生」の枠で，中国の大学出身者などを受け入れていた。

2. 1930 年代半ばに留学生増加の要因

表 1 からわかるように，京都帝大の中国人留学生入学者数と総人数の推移は，第三次留日ブームの留学生増加の動向と一致している。

周知のように，日本のエリートを育成する帝国大学の入学資格は厳しく，本科生に進学できるのは，基本的に一高～八高の出身者で，日本で教育を受けた者であった。帝国大学の入学基準の厳しさからすると，留日ブーム中に来日した中国人学生の急増と帝国大学留学生本科生の増加とは直接の影響はないと考えられる。しかし，帝国大学には本科生と大学院生以外に専攻生，選科生，委託生として入学する道があり，専攻生として九州帝大，東北帝大，北海道帝大，東京帝大医学部で学んだ留学生が少なくなかった[12]。

1930 年代半ばの京都帝大中国人留学生増加の実際の原因は何であろうか。それを明らかにするには，留学生の在学身分，出身校などの基本データが重要であり，筆者が作成した資料の「名簿」によって，その原因を分析することができるようになった。それらのデータからまとめると，以下の二点が主な要因だと思われる。

(1) 一高の特設高等科卒業生の入学

1930 年代半ばに京都帝大中国人留学生が増えた一つの要因は，一高が 1932 年に新設した 3 年制特設高等科[13]卒業生の入学であった。

表 2　各学部の一高出身者入学人数

入学年	法	医	工		文	理	経	農	計
1927-1934	1	1	1		1	1	2	1	8
1935	2	2	1		1	1	2		9
1936	5	5	6				3	1	20
1937	2	6	7			1	1		17
計	10	14	15		2	3	8	2	54

1927-1937 年の留学生総数（283 名）の約 2 割を占めていたのは，各学部の一高出身者 54 名であるが，一高特設高等科から卒業生が出る前の 1927-1934 年の 8 年間では 8 名しかなかった。1932 年に設立された一高特設高等科は 1935 年に第一回の卒業生を迎え，表 2 から分かるようにその後京都帝大に入学した一高出身者は 1935 年 9 名，1936 年 20 名，1937 年 17 名と，3 年間で 46 名となった。そのうち理系の工学部と医学部の入学者が多く，文系の法学部と経済学部がそれに続くが，特設高等科卒業生には理系学生が多かったことが関係している。

韓立冬の研究によると，同じ年度の特設高等科卒業生人数は 1935 年 13 名（文 6，理 7），1936 年 25

名（文 10，理 15），1937 年 20 名（文 7，理 13）であった[14]。同研究には「1935 年特設高等科第一回卒業生志望大学調」として名簿が掲載されているが，それを資料の「名簿」と照らしあわせた結果，1935 年の 13 名卒業生の中 9 名が京都帝大に進学したことが確認できた。1936–1937 年に京都帝大に入学した一高出身者はほとんど特設高等科の卒業生だと考えられる。1936 年に入学した留学生数 61 名の中で，一高出身者 20 名は同年総数の 3 分の 1 を占めていた。

当時の留学生が一番憧れた進学先は東京帝大であったが，一高特設高等科出身のほとんどが京都帝大に入学した理由は，韓立冬の指摘の通り，京都帝大の「無試験収容の方針」[15]のためであった。東京帝大各学部の厳しい入学条件[16]に対して京都帝大は無試験で一高特設高等科卒業生を受け入れたのである。京都帝大が積極的に一高特設高等科卒業生を受け入れていた姿勢は，1936 年 6 月 20 日の『京都帝国大学新聞』に「一高特設予科の卒業生　全部を本学に収容　満支留学生への福音」という記事からもうかがえる。

(2) 数多くの「外国学生」の入学

京都帝大には，明治時代から留学生を受け入れる「外国学生」規則が存在し，数多くの留学生を受け入れていた。「外国学生」は，京都帝大の特徴的な留学生制度であった。

表 3 は京都帝大の「外国学生」の入学者数であるが，入学後に選科生や委託生などから身分転換で「外国学生」となった者を統計対象にはしていない。

表 3　各学部「外国学生」の入学人数

入学年	法	医	工	文	理	経	農	計
1927	1					2		3
1928						4		4
1929						2		2
1930								
1931				2		1		3
1932	1			3		2		6
1933	4			5		7		16
1934	8		3	5		8		24
1935	12			5		8	2	27
1936	9		3	7		10	1	30
1937	5		2	3		4	2	16
計	40		8	30		48	5	131
留学生総人数	66	19	40	43	21	79	15	283

注：文学部（付番 12）の丁世選は 1931 年と 1936 年の 2 回入学した記録があるが，本表では 1931 年のみ 1 と計上している。

表 3 から分かるように，法，工，文，経，農学部は「外国学生」を受け入れており，1927–1937 年の間に入学した留学生総数 283 名のうち 131 名が「外国学生」であった。特に 1936 年の留学生入学者 61 名（表 1 参照）のうち，「外国学生」は（外国学生 / 留学生総数：法 9/16；医 0/6；工 3/14；文 7/7；理 0/2；経 10/13；農 1/3）30 名であり，約半数を占めしていた。これらのデータからわかるように，1930 年代半ばに京都帝大中国人留学生が大幅に増えた一番の要因は，「外国学生」の増加であったと言

うことができるであろう。

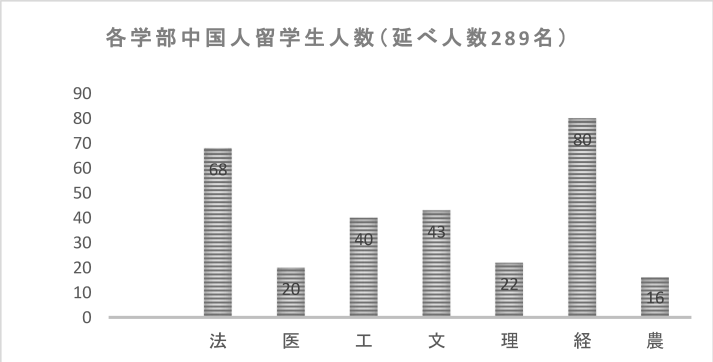
「外国学生」についての詳細は第四章にて後述する。

二．専攻の分布と転学部生

1．専攻の分布

1927–1937 年の間に京都帝大に入学した中国人留学生は，合計 283 名で，その内の 6 名は，転学部などによって，二つの学部に在籍していた。7 学部（法，医，工，文，理，経，農）の延べ人数は 289 名であった。

グラフ　各学部の中国人留学生人数（1927–1937 年）



グラフから分かるように，経済学部の留学生が 80 名で一番多く，次は法学部の 68 名，文学部は 43 名であった。在籍人数は文系の経，法，文学部が多く，理系の工，理，医，農学部は少ないのは一目瞭然である。

帝大全体の文理科の人数比率は，各帝大の専攻設置と関わっているが，理系専攻の留学生は文系より多かった[17]。しかし，京都帝大では，文系の留学生が理系よりはるかに多かった。特に経済学部の留学生は多く，中には駐日留学生監督になった者もいた。1928–1930 年に経済学部で学んでいた周憲文は，1934 年に駐日留学生監督に就任した。任期中に留学生の実態を調査し，「留日学務近状一瞥」[18]を執筆して，当時の中国人留学生について詳しく紹介していた。留学生監督を退任後，中国の大学で教鞭をとりながら，経済分野で研究を行ない，複数の大学の商学院院長などを歴任し，戦後の台湾でも活躍した。周憲文についての研究は，孫安石の「駐日留学生監督処監督「周憲文」の経歴―その光と影」[19]がある。

2．転学部生と卒業後他学部への再入学者

「京都帝国大学通則」には，「……入学希望者ヲ収容シ尚欠員アル場合ニ限リ記載ノ順位ニ依リ入学セシムルコトアルベシ」とし，その記載の順位に「一学部ヨリ他学部ニ転学ヲ望ム者」が含まれている[20]。

1927–1937 年の入学者のうち，表 4 の 6 名は二つの学部に在籍していた。

表 4　転学部生および卒業後他学部への再入学者

氏名	学部		学部
王作述	工（2）	→	経（17）

趙葆謙（卒）	工（5）	→	法（15）
田時雨	工（6）	→	理（2）
沙錫敏	工（35）	→	農（16）
何茂芝	理（21）	→	医（20）
憲　容（卒）	経（28）	→	法（31）

注：（　）の数字は資料「名簿」の付番である。

本稿が対象とする 1927-1937 年の入学者以外にも，二つ以上の学部で勉強していた学生が複数いた。資料の「名簿」に収録されている文学部の張源祥は，その一人である。

『一覧』によると，張源祥の留学歴は次のようである。彼は 1924 年 3 月に京都帝大経済学部を卒業し，経済学士となった。その後，経済学部の大学院に進学し，3 年間在籍していた。1928 年に文学部に再入学して，1931 年 3 月に卒業し，文学学士となり，同年に文学部の大学院に進学した。その後，1932 年を除いて 1933-1942 年（『一覧』の刊行は 1942 年まで）の間，文学部の大学院に長く在籍していた。

毎年京都大学が提出した名簿により作成された日華学会『名簿』の記録は『一覧』と異なり，在籍していても在学していない学生については，〇印を付けるか，あるいは収録しないことがある。日華学会『名簿』の記録では，1932-1935，1939，1942，1943 年には張源祥の記録がなかった。出身校についても，年により一高，京大文，京大経・文など様々であったが，数年「東大経」とする記録もあった。『東京帝国大学一覧』を調べると，張源祥は，1921-1923 年に東京帝大の経済学部に在籍していた[21]ことがわかった。おそらく，東京帝大から京都帝大に転学して，同大で卒業したのであろう。

張源祥については，「張源祥教授　略歴並びに著作目録」[22]，「張源祥先生略歴」[23]「関西学院事典」[24]及び『関西学院文学部六十年史』[25]の記録があり，その軌跡は次のようである。

1899 年神戸に生まれ[26]。1924 年 3 月に京都帝大経済学部卒業後，同文学部哲学科に入学して美学を，さらに大学院で音楽美学を専攻した。1931 年 9 月に中国広州の国立中山大学文学院教授として美学・芸術学を担当した。その後，関西学院大学予科教授（1933 年から），法文学部講師（1944 年），新制大学文学部教授（1948 年）と歴任した。

文学部哲学科では張源祥教授の指導のもとに学生が美学を副専攻として卒業することを認めていたため，1952 年 4 月，美学科を発足し，音楽美学研究の基礎をこの美学科に築いた。張源祥は音楽学会（現，日本音楽学会）理事・関西支部長を長く務めて音楽学会，東洋音楽学会の育ての親として活躍した。著書は『哲学概論』，『音楽論』，『美学概論』などがあり，数多くの論文も発表した。また音楽の演奏家，愛好家，研究家の交流と共感の場を創る目的で，1963 年，西宮市上甲東園に関西音楽学研究所（現，関西学院張記念館）を設立した。1963 年，西宮市民文化賞，1967 年，兵庫県教育功労者表彰，1968 年，兵庫県文化賞を受賞した。

著名な音楽美学研究者であった張源祥は，大学で教鞭をとりながらも，1946 年まで京都帝大文学部大学院で音楽美学を研究した。京都帝大に一番長く在籍し，学び続けた留学生といえよう。

三．身分の類別と身分転換・特例

1．類別

留学生は入学後，身分が変わることがあった。表 5 は入学時の身分別のデータである。

表 5　入学時の各学部留学生身分別人数（1927–1937 年）

	法	医	工	文	理	経	農	計
大学院		1			1			2
本科	26	14	23	12	6	28	8	117
「外国学生」	40		8	30		48	5	131
専修科		4						4
委託			2		13	2		17
選科			5	1	1		1	8
嘱託			1					1
研究			1					1
聴講						1		1
不明							1	1
合計	66	19	40	43	21	79	15	283

表 5 からわかるように，昭和初期の京都帝大留学生のうち「外国学生」の人数は 131 名と一番多く，本科生は 117 名であった。医学部と理学部は，本科生以外に「外国学生」の枠はなかったが，それぞれ専修科生を 4 名，委託生 13 名を受け入れていた。

法学部は，本科生と「外国学生」の二種類のみであったが，工学部はそれ以外に委託，選科，嘱託，研究（補助）員などがあり，学部によって留学生の身分の類別の違いがかなりあった。

この時期の医学部と理学部は「外国学生」の枠を設けなかったが，理学部は，委託生として中国の大学出身者と日本教育機関で教育を受けた留学生を受け入れ，医学部の専修科も同じように留学生を受け入れていた。理学部の委託生は中国大学の出身者が 7 名であり，日本の高校の出身者は 6 名であった。医学部の本科生は，すべて一高の卒業生であったが，専修科生として大阪女子医専，奉天南満医学堂，北平大学医学院出身の 3 名の留学生を受け入れていた。

2. 身分転換

資料の「名簿」を調べると，入学後，学生身分を変更した者が複数おり，『一覧』で確認できた者は 8 名であった。

表 6　入学後，身分変更した者（8 名）

学部	学科	氏名（付番）	入学時身分（出身校）	変更後身分
工学部	工業化学	林紀方（13）	委託生（上海大同大学）	「外国学生」
工学部	工業化学	方錫嘉（23）	選科生（上海復旦大学）	「外国学生」
工学部	土木	賈永昌（36）	選科生（ハルビン工業大学）	「外国学生」
理学部	動物	繆端生（4）	選科生（東京高等師範学校）	委託生
経済学部		廖済寰（52）	委託生（第一高等学校）	本科生
経済学部		李世維（53）	委託生（第一高等学校）	本科生
農学部	農学	酆裕洹（2）	選科生（東京高等工業学校）	本科生
農学部	農林生物	于景譲（9）	「外国学生」（東京高等師範学校）	本科生

「京都帝国大学通則」により，卒業試験に合格して卒業証書を授与されるのが本科生，「外国学生」と委託生であり，選科生は卒業証書ではなく修業証書が授与された[27]。表6の選科生4名は，入学後の身分変更により，卒業証書を授与される身分となった。他には経済学部の一高出身の委託生2名は本科生となり，農学部では，一高出身ではない2名も本科生に身分が変更できた。

3. 副手と大学院生

『一覧』には副手などについての情報は収録されていないが，日華学会『名簿』には副手や研究員の情報も掲載されている。医学部，工学部の留学生の中に，卒業後，副手となった者が7名いたことがわかった。それ以外に医学部の専修生が副手となったケース（蔡聯歓（女））もあった。

表5から分かるように，他大学出身者の京都帝大大学院への入学者は極めて少なく，2名しかいなかった。この時期に京都帝大に在籍していた留学生大学院生は少なくなく，資料の「名簿」を見ると，大学卒業後（あるいは副手などを経て）に大学院生となった者は，法：3名；医：5名；工：6名；理：1名；経5名；農：2名であり，合計22名であった。そのうちに「外国学生」は大学院へ進学したのは5名であり，法学部の1名と経済学部の4名であった。

彼らは，ほとんど京都帝大の卒業後に大学院へ進学した者であり，他大学から入学した大学院生は，理学部の陶慰孫（女）と医学部の郭文宗だけであった。郭文宗は，満洲医科大学からの大学院生であり，1936年の『一覧』に「医学士　衛生学」[28]と記録されている。

4. 特例――陶慰孫の入学

陶慰孫は，副手として理学部に入った後に大学院生となった特別な例である。陶慰孫の京都帝大の指導教官であった理学博士小松茂が「理学博士 陶慰孫女史を語る」[29]の中で彼女の京都帝大での研究などを詳細に述べている。

陶慰孫は幼少期から家族とともに日本で暮らして教育を受け，1918年に東京女子高等師範学校を卒業した。その後中国に戻り，しばらく教鞭を執ったのだが，その後アメリカへ渡り，修士学位を獲得した[30]。しかし，文章の中では，「女史は昭和二年から六年の秋まで京都帝国大学理学部に副手として勤め，対支文事業の援助の下で，糖類及び蛋白類の生物化学的研究に従事した……昭和七年七月理学博士の学位を授与せられた」[31]と記述されているだけで，大学院生時期については触れられていなかった。

日華学会『名簿』よると，彼女は1928年度に副手，1930-1931年度に大学院生であった。同時期の1930-1931年『一覧』の「学生及生徒姓名　大学院」には陶慰孫の記録がなかったが，1932年の『一覧』の「学位録　理学博士」欄に「陶慰孫（論文提出）昭七年七月七日」が記載されている[32]。

以上の史料から，彼女は大学院生期間も副手の仕事を継続していた可能性が高い。副手と大学院生の二重身分の者は『一覧』の大学院生名簿に載せられなかったのであろうか。

小松茂の文章では彼女の「その熱誠の情は，当時女性に門を開放せざる大学をも特別の取扱ひをなさしめた」[33]と強調している。京都帝大の初めての女子博士となった陶慰孫の入学は，特例であったのだろう。陶慰孫は，初めて日本で博士号を取得した中国人女性でもあり，帰国後，中国の大学の学科建設，生物化学専攻の設立などに大いに貢献した。

以上の留学生の身分変更や入学の特例などから，京都帝大の留学生に対する制度上の柔軟性が感じられるのである。

四.「外国学生」

京都帝大には，本科生以外に「外国学生」の枠があり，明治時期に「外国学生」として留学生を積極

的に受け入れていた。それは，地方帝国大学の共通の悩みであった入学志願者不足[34]の問題とかかわっていたと考えられる。

1．留学生に関する規定

京都帝大が成立した当時の「分科大学通則」「第 2 章　入学」（1887（明治 30）年 9 月 3 日付）には，留学生について次のように定められている。

「第十三条　外国人ニシテ入学セントスル者アルトキハ其志望学科ニ従ヒ特別ノ試問ヲ行ヒ之ヲ許可スルコトアルヘシ

本条ノ場合ニ在テハ第十二条ニ定ムル保証書ヲ要セス本人ノ属スル本邦駐在ノ公使又ハ領事ノ証明書ヲ差出スヘキモノトス」[35]

1904 年 9 月 1 日付「京都帝国大学通則」第 2 章分科大学の第 3 節「外国学生」では，「分科大学通則」留学生の規定が改定され，「特別の試問」などの条項がなくなり，次のように文部省令[36]を基準にして，学生又は選科生に関する規定を準用することにした。

「第三十一条　外国人ニシテ入学セントスル者アルトキハ明治三十四年文部省令第十五号ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許可ス

第三十二条　外国学生ニハ学生又ハ選科生ニ関スル規定ヲ準用ス」[37]

1911 年 1 月 20 日の「京都帝国大学通則」は，上記の内容以外に「外国学生ニシテ学部所定ノ試験ニ合格シタル者ニハ本人ノ志望ニ依リ学カヲ検定シ高等学校高等科卒業同等以上ト認メタルトキハ卒業証書又ハ学士試験合格証書ヲ授与ス」[38]といった内容を加え，規程上で正式に留学生の卒業，学士号の取得を認めた。この内容の追加は，京都医科大学の「外国学生」蔣履曽が 1910 年 3 月に卒業したことの影響があったと考えられる。

『一覧』の「学生及生徒姓名」にある「外国学生」の欄は，1939 年に「外国人特別入学規程ニ依ルモノ」に変更された。

2．「外国学生」の実態

『一覧』によると，京都帝大の最初の中国人留学生は，馬和（君武）であった。馬和は 1903 年に「外国学生」として理工科大学に入学し，1904 年まで 2 年間在籍していた[39]。医学部の「外国学生」蔣履曽は，1905–1909 年度に京都医科大学に在籍しており，1910 年 3 月に卒業した[40]。蔣履曽は明治期に唯一卒業した中国人留学生であった。『一覧』の記録によると，明治期には，京都帝大の理工科大学，京都医科大学，法科大学に 30 名の「清国」留学生が学んでいた。

「外国学生」の枠は，1910 年頃からなくなり，在学中の「外国学生」たちは，選科に身分を変更していた[41]。その後，経済学部が設立された 1919 年までは「外国学生」枠がなかった。留学生たちは，本科生，選科生などとして在学していた。

1919 年 5 月に京都帝大経済学部は，法律学部から分離されて創設された。『一覧』では，経済学部成立当初に中国人留学生は全員本科生と選科生であったが，1920 年 1 月の「学生及生徒姓名」では「外国学生」枠が設けられ，1917 年と 1918 年に入学した 5 名の選科生は「外国学生」と変更されて，京都帝大の「外国学生」制度は，再び動き出した[42]。

日華学会『名簿』によると，経済学部に続き，法学部が 1927 年に北京大学出身の呉学義という「外国学生」を受け入れた。彼は 1930 年まで在学していた[43]。1931 年『一覧』の「卒業生姓名」により，呉学義は 1931 年 3 月に卒業したことが確認できた。

資料の「名簿」を作成している過程で，大正期からの「外国学生」の実態は，明治時期と異なり，外国人留学生という意味ではなかったことがわかった。明治期の「外国学生」は外国人学生の意味であっ

たが，大正期からは留学生の中には本科生も「外国学生」も数多く存在しており，「外国学生」の定義は国籍で線引きすることではなく，出身学校で区別したようである。

資料の「名簿」から分かるように，本科生の多くは一高～八高などの日本の教育機関の卒業生であり，「外国学生」の場合は中国の大学の出身者と，一高～八高以外の日本教育機関の出身者がほとんどであった。

表 7　留学生本科生と「外国学生」出身校の分類（国別など）

	留学生本科生（117 名）の出身校		「外国学生」（131 名）の出身校		
	一～八高	その他の日本学校	中国	日本	「満洲国」
法	23	3	25	14	1
医	14	0			
工	19	4	8		
文	10	2	19	11	
理	6	0			
経	23	5	15	33	
農	7	1	4	1	
合計	102	15	71	59	1

表 7 から分かるように，「外国学生」総数 131 名の半数以上の 71 名は中国の高等教育機関出身者であり，日本教育機関の出身者は 59 名，「満洲国」学校の出身者が 1 名であった。

「外国学生」出身校の国別の状況は学部によりさまざまであった。工学部はすべて中国高等機関の出身者であり，法，文，農学部は中国教育機関の出身者が多かった。経済学部は，日本高校の出身者が多く，それは，日本私立学校の上海東亜同文書院から経済学部に留学生（10 名）を送った影響があった。法学部には中国の私立法科大学である朝陽大学（1929 年私立北平朝陽学院に改称）の出身者が多く，11 名であった。

全体的に見ると，中国教育機関出身の「外国学生」は，ほぼ中国の大学の出身者であり，北京（平）大学，中山大学などの出身者が目立った。日本教育機関出身者には，広島高師，東京高師が多く，早稲田専門部，長崎高商（経済学部）などもよく見られた。

本科生と比べると，「外国学生」の給費生は少なく，卒業率も低かった。資料の「名簿」から分かるように，本科生のほとんど（短期在学者を除く）は，留学期間中に 1 年間または数年間の官費や公費及び文化事業補助費（補給，選抜，特選）などを受けていたが，「外国学生」の給費生は少なかった。特に第三次日本留学ブームの期間に入学した「外国学生」は，私費生が多く，卒業した者が少なかった。それは，学資の問題だけではなく，1937 年の日中戦争の勃発により，多くの中華民国出身の留学生が帰国して再び日本に戻ってこなかったことが一番の要因だと思われる。

帰国した留学生たち（本科生を含む）の氏名は，京都帝大『一覧』の 1941 年または 1942 年の最終版まで記録され続けた者が少なくなく，おそらく京都帝大は帰国した留学生の除籍の措置を厳しく取らなかったものと思われる。

おわりに

京都帝大は，明治の創立当時から留学生を積極的に受け入れた。初めての中国人留学生が 1903 年に「外国学生」として入学して以来，数多くの留学生が京都帝大で学んだ。昭和初期（1927–1937 年）に

入学した中国人留学生の総数は 283 名であった。

1930 年代半ばの第三次中国人留日ブーム期には，大勢の若者が日本にやってきた。その中には数多くの高学歴な若者も含まれており，これが中国人留学生の帝国大学入学希望者急増の背景であった。当時の中国高等教育の発展や普及は，帝国大学に留学したい若者たちに必要な学力の基礎を提供した。数多くの留学生の帝大入学希望者の存在は，日本政府や各帝大を動かし，日本帝大の留学生入学制度の改革を促進した側面もあった。つまり，この時期の中国人学生の帝国大学の留学は，中国国内の高等教育の発展とも密接に関係していた。

日本の帝国大学は中国高等教育機関出身の入学希望者のため，大学院の門戸を開いた（東京帝大）ほか，専攻生制度（九州，東北，北海道，東京帝大医学部）などで対応した。京都帝大は明治時代から規定されていた「外国学生」制度で，中国で高等教育を受けた留学生などを本科で受け入れた。

京都帝大の「外国学生」は，本科生と同じ授業を受けて，卒業試験に合格すれば，卒業と同時に学士号の取得もできた。『一覧』の「卒業者姓名」にも記録されている。少数だが，「外国学生」は卒業後大学院に進学した者もいた。以上の点から京都帝大の「外国学生」は，「準本科生」ともいえるだろう。

「外国学生」制度は，京都帝大に特徴的な留学生制度であり，中国の高等教育機関で教育を受けた者だけではなく，一高～八高の進学校出身者以外の留学生にも本科で学ぶ機会を提供したのである。

京都帝大は，「外国学生」制度で幅広く中国人留学生を受け入れただけではなく，一高特設高等科の卒業生に対して，無試験で受け入れる措置も取っていた。他には，入学後の身分を変更した者もよく見られ，特例の入学ケースもあった。京都帝大の制度上の柔軟性は，留学生への対応からもよく見てとることができるのである。

【付記】本論文は JSPS 科研費（23K02070）の助成によるものである。なお，本稿の文責はすべて著者にある。

注

（1）所澤潤「外国人留学生取扱ニ関スル調査委員会」（昭和 17〔1942〕年・東京帝国大学の記録）」，「東京大学における昭和 20 年（1945 年）以前の女子入学に関する資料」（『東京大学史紀要』9，1991 年）；「東京帝国大学における大東亜戦争後半期の外国人留学生受入状況 ── 「外国学生指導委員会」の活動を中心に ── 」（『東京大学史紀要』10，1992 年）など。

（2）九州大学博士論文，2008 年 10 月。

（3）孫安石・大里浩秋編著『明治から昭和の中国人日本留学の諸相』東方書店，2022 年。

（4）科学研究費補助金研究成果報告書『九州帝国大学における留学生に関する基礎的研究』2004 年 3 月；『東北大学史料館紀要』創刊号，2006 年 3 月；『北海道大学大学文書館年報』第 5 号，2010 年 3 月；第 6 号，2011 年 3 月。

（5）日本大学理工学部『一般教育教室彙報』第 108 号，2020 年 4 月；神奈川大学人文学研究所《人文学研究所報》No. 68，2022 年 9 月。

（6）（「近代中国留日医学生档案 ── 以日本六所帝国大学为中心」）上海大学文学院歴史系『医療社会史研究』社会科学文献出版社，第Ⅱ巻第 1 期，2017 年；千葉大学大学院人文公共学府　研究プロジェクト報告書第 376 集『近代東アジアにおける国家と個人』2023 年。

（7）日華学会『名簿』は政局の変化により何度も名称を変えた。第 1 版（1927 年）から 6 版までは，『留日中華学生名簿』であったが，「満洲国」が成立したため，第 7 版から 10 版までは，『留日学生名簿』に，第 11 版から 13 版までは『中華民国・満洲国留学生名簿』となった。1935 年から駐日「満洲国」大使館が留学生の統計を取り始めたので，『名簿』は第 14 版から中華民国留学生のみを調査することになり，『中華民国留日学生名簿』と改称した。

（8）国立国会図書館デジタルコレクション 1927-1942 年『京都帝国大学一覧』https://dl.ndl.go.jp/（2023 年 11 月 4 日最終閲覧，以下同じ）。

（9）「五校特約」は，1908-1922 年の 15 年間に，日本の五校（第一高等学校，東京高等師範学校，東京高等工業学校，山口高等商業学校，千葉医学専門学校）が，毎年合計 165 人の中国人留学生を受け入れるという日中

両国の間で決められた留学生政策である。
(10)「表 5-1　中国人留学生の総人数表（1905-1944 年）」拙著『近代中国人日本留学の社会史 ── 昭和前期を中心に ──』東信堂，2020 年，60 頁。
(11) 第三次留日ブームの要因としては，1933 年の「留学規程」実施；失業危機からの脱出；先進知識を求める；円安で日本留学は安価で済む；「満洲国」の積極的な留日政策などがある（拙著『中国人女性の日本留学史研究』東信堂，2000 年，254-255 頁）。
(12)「はじめに」において言及した先行研究など。
(13)「1932（昭和 7）年 6 月 1 日特設高等科新設　定員文・理科各 30 名　これにより中国人留学生の教育は専ら一高が担当する」「歴史―概要／第一高等学校略史」第一高等学校ホームページ（u-tokyo.ac.jp）
(14) 韓立冬「旧制第一高等学校特設高等科の留学生教育」『アジア地域文化研究』No. 7，2011 年 3 月，10 頁の「表 6　特設高等科卒業生年度別統計」参照。
(15) 同上，12 頁。
(16) 同上。
(17) 拙論「帝国大学における中国人留学生（1927-1937 年）── 人数・専攻・類別 ──」日本大学理工学部『一般教育彙報』108 号，2020 年，4-5 頁。
(18)『教育雑誌』第 24 巻第 1 号，1934 年 9 月，173 頁。
(19) 神奈川大学人文学会『人文研究』第 185 号，2015 年 3 月，33-43 頁。
(20)「京都帝国大学通則」『京都帝国大学一覧』昭和 4 年，124-125 頁。
(21)「学生生徒姓名　経済学部　経済学科」『京都帝国大学一覧』従大正 12 年至大正 13 年，82 頁。
(22) 関西学院大学人文学会『人文論究』第 18 巻第 4 号，1968 年 3 月，172-175 頁。
(23) 日本音楽学会『音楽学』通号 15，1970 年 7 月。
(24)「張源祥」（増補改訂版）学院史編纂室（2014 年 9 月 28 日更新）https://ef.kwansei.ac.jp/encyclopedia/detail/r_history_008664.html。
(25) 関西学院大学文学部『関西学院大学文学部 60 周年史』1994 年，397-403 頁。
(26) 張源祥の出生については，1964 年の「張源祥教授　略歴並びに著作目録」では「明治 32 年 6 月 19 日　神戸に生まる」（前掲『人文論究』第 18 巻第 4 号，171 頁）とされているが，1970 年の「張源祥先生略歴」では「明治 32 年 9 月 19 日　中国安徽省歙県武陽に生る」（前掲『音楽学』通号 15，1970 年 7 月，2 頁）と記載されており，出生地と出生月に相違がある。
(27)「第二章学部　第一節学生　第二節選科生　第三節外国学生　第四節委託生」『京都帝国大学一覧』昭和 5 年，120-126 頁。
(28)『京都帝国大学一覧』昭和 7 年，332 頁。
(29) 小松茂「理学博士 陶慰孫女史を語る」『女博士列伝』財団法人科学知識普及会，1937 年 7 月，214-220 頁。
(30) 同上，219 頁。
(31) 同上，215 頁。
(32) 前掲『京都帝国大学一覧』昭和 7 年，515 頁。
(33) 小松茂「理学博士 陶慰孫女史を語る」『女博士列伝』219 頁。
(34) 天野郁夫『帝国大学 ── 近代日本のエリート育成措置』中央公論新社，2017 年，100-104 頁。
(35) 京都大学百年史編集委員会【資料編 1】［第 1 編：法令・規則］「第 2 章：通則」『京都大学百年史』1999 年，71 頁。
(36) 文部省令第 15 号「文部省直轄学校外国人特別入学規程」1901 年 11 月 11 日。
(37) 前掲『京都大学百年史』78 頁。
(38) 同上 91-92 頁。
(39)「理工科大学学生姓名　外国学生　三十六年入学　馬和　清国」『京都帝国大学一覧』従明治 37 年至明治 38 年，81 頁；『京都帝国大学一覧』従明治 38 年至明治 39 年，88 頁。
(40)「卒業生姓名」『京都帝国大学一覧』従明治 43 年至明治 44 年，52 頁。
(41)「学生及生徒姓名」『京都帝国大学一覧』従明治 43 年至明治 44 年，10，32-33 頁。
(42) 同上，従大正 7 年至大正 8 年，322 頁；従大正 8 年至大正 9 年，328 頁。
(43) 1927-1931 年『一覧』の法学部「学生及生徒姓名」には「外国学生」枠がなかったため，呉学義の名前は

収録されていなかったが，1931 年『一覧』の「卒業生姓名」により，呉学義は 1931 年 3 月に卒業したとされ，日華学会『名簿』の呉学義の在学記録と一致していることが確認できた。1932 年から法学部「学生及生徒姓名」に「外国学生」枠が設けられ，その後の「外国学生」は『一覧』に記録された。

資料：「京都帝国大学中国人留学生名簿――昭 2-12（1927-1937）年の入学者――」

凡例：

本名簿は主な資料として日華学会作成の『留日中華学生名簿』（時期によって 3 度改題しているが，ここでは以下日華学会『名簿』）各年版をもととして，その他に京都帝国大学『京都帝国大学一覧』（以下『一覧』）と満洲国駐日大使館『満洲国留日学生録』（以下『学生録』）のデータを補足して作成したものである。

本名簿は，学部別に入学年度順に並べ，同じ年度の場合は本科生，選科生，委託生，聴講生，専修科生，「外国学生」，研究（補助）員，嘱託の順に配列した。1932 年から「中華」「満洲国」の順で情報を加えている。

以下は，項目欄の説明である。

「省籍」：日華学会『名簿』には「省県」のデータがあるが，本資料では県・市を省いて省籍のみ掲載している。年により異なる省籍が記録されている場合や省の改称（例。奉天→遼寧→奉天）なども原資料のまま記載している。日華学会『名簿』には「満洲国」成立後も，省，県などの情報しか記されておらず，「満洲国」という表記はなかった。『一覧』には留学生の出身国が記録されており，中国人留学生の場合は，1929（昭和 4）年までは「支那」，1930 年から「中華」あるいは「中華民国」と記されている。「満洲国」成立後に，『一覧』では 1932 年度から「満洲」あるいは「満洲国」の記載が始まった。本名簿では，「満洲国」留学生の省籍の後に「満」を加えた。

「身分」：学生身分の種類としては，本科生，選科生，委託生，聴講生，専修科生（医学部），「外国学生」，研究科と研究（補助）員，副手，嘱託があり，本項目欄では本，選，委，聴，専，外，研，副，嘱と略記した。「外国学生」については，日華学会『名簿』には外国人特別（学）生・外国学生・外特生・外特・「外国人外特別入学規定ニヨル」などさまざまな表現があるが，『一覧』の「外国学生」と表記を統一した。

「学科または専攻」：学部の学科または専攻を以下のように略記した。

医学部：医学科，薬学科，微生物学，免疫学，眼科，内科，外科を医，薬，微，免，眼，内，外；工学部：土木工学科，機械工学科，電気工学科，採鉱冶金学科，工業化学学科，建築学科を土木，機械，電気，採鉱冶金，工化，建築；文学部：哲学科，史学科，文学科を哲，史，文；理学部：物理，化学，数学，動物学，植物学，宇宙物理学，地質学鉱物学を物，化，数，動，植，宇宙物，地質鉱；農学部：農学科，林学科，農林化学科，農林生物学科，農林経済学科を農，林，農林化，農林生，農林経。

「出身校」：日華学会『名簿』では，出身校記録は日本と「満洲国」の学校が略称で，中国の学校は正式名称で記載されているようである。本名簿では，基本的に原資料のまま記載した。出身校が複数ある場合は，最終学歴だけを記し，年度により出身校名が異なる場合は，できるだけ統一した。例えば，上海同文書院・東亜同文書院などは上海東亜同文書院；朝陽大学と朝陽学院（1929 年に朝陽大学は朝陽学院に改称）は朝陽大学（学院）とした。

「学費別と年数」：1939 年までは日華学会『名簿』のデータであるが，1940 年以後の「満洲国」留学生の学費については，『学生録』のデータを使用した。日華学会『名簿』では年度によって費用の名称が異なる記録があるが，基本的に以下のように統一した。省費・省官費・官費・「満洲国」の文教部（奨金）を官費扱いとして「官」；学校などの奨励金を公費扱いとして「公」；満鉄，満鉄補給，満鉄給費を「満鉄」とし，給費と貸費はそのままとした。一般補給・文化補給・補給は「補」；選抜は「選」；特選は「特」と略記した。自費または不明の場合は空欄とした。学費の受給年数は，日華学会『名簿』各年版の記録から数えたものだが，日中戦争勃発後の 1937 年夏から帰国した学生に関する官費（1938 年以後）などの記録には疑義がある。

「入学年月」・「卒業年月」：入学は日華学会『名簿』と『一覧』及び『学生録』による情報で，卒業は『一覧』の記録である。

「在籍年度」：日華学会『名簿』の記録及び『一覧』で確認した情報である。1938 年度から在学していない留学生について，その多くを日華学会『名簿』は姓名の上に〇印で明示しているが，『一覧』は在校生と区別なく氏名を記載しており，京都帝大では長い期間学籍が保留されていたと考えられる。1941 年度と 1942 年度最終版の『一覧』にも数多くの留学生の姓名が収録されている。

「帰国（中）」:『一覧』には記録がなく，日華学会『名簿』の記録によるもの（〇印あるいは記録なし）である。

日華学会『名簿』は，主に各学校の報告により集計されたデータなので，信ぴょう性が高いものの，在籍していた留学生がすべて網羅されているわけではないこと（例えば理学部付番 3）が本名簿の作成によりわかった。『一覧』が掲載している「学生及生徒姓名」の統計時期は年によって異なり，一年以上期間が開いている場合もある。そのため収録から漏れている学生が少なくとも 9 名（工学部付番 22，24，37；文学部付番 41；経済学部付番 39，64，65，69；農学部付番 3）いたことも判明した。

本名簿の作成にあたっても誤記や遺漏などは避けられないことだが，京都帝国大学中国人留学生の全体像を把握する一助となれば，幸いである。

	姓名	省籍	学科または専攻	身分	出身校	学費別と年数　空白：自費または不明	入学年月	卒業年月	在籍年度	帰国（中）	筆者注及原資料記録（日華学会『名簿』）［『一覧』］【『学生録』】	出典
法学部　68 名												
1	葉　浩	浙江		本	一高	官 2	1927. 4		1927-1928			①②
2	王秉鐸	奉天		本	山形高	官 3	1927. 4	1930. 3	1927-1929			①②
3	郭寶森	奉天		本	六高	官 3	1927. 4	1930. 3	1927-1929			①②
4	宋　毅	奉天		本	二高	官 3	1927. 4	1930. 3	1927-1929			①②
5	呉學義	江西		外	北京大学	官 2 補 2	1927. 4	1931. 3	1927-1930			①②
6	傅　素	湖南		本	六高	官 1 補 2	1928. 4	1933. 3	1928-1932			①②
7	馬祥麟	甘粛・湖北		本	山形高	補 4	1928. 4	1932. 3	1928-1931			①②
		甘粛		大	京大法	補 1 選 1	1932. 4. 14		1932-1934		［行政法］	①②
8	鄭長羣	廣東		本	六高		1929. 4		1929	1929		①②
9	兪元鎬	浙江		本	京大理		1929. 4		1929		［理学士］	①②
10	曲克善	奉天・遼寧		本	七高	官 2 満鉄 1	1929. 4	1933. 3	1929-1932	1931. 7	中華→「満」	①②
11	王俊楷	奉天・遼寧		本	三高	官 2	1929. 4	1932. 3	1929-1931			①②
12	呉増喜	奉天「満」		本	七高	満鉄 2 選 1	1932	1935. 3	1932-1934		1934 年復費：選抜（外ニ満鉄奨学金アリ）	①②
13	頼季宏	広東		外	中山大学		1932		1932-1933	1932. 9		①②
14	朱慶儒	吉林「満」		本	八高	官 2	1933	1936. 3	1933-1935			①②
15	趙葆謙	奉天「満」		本	京大工		1933		1933	1933. 3	工学士，卒業後法学部に	①②
16	林有通	広東		外	明治大学		1933		1933-1934			①②
17	徐光達	安徽		外	武昌中山大学	官 2	1933	1936. 3	1933-1935			①②
				大	京大法				1936			①
18	姚華廷	浙江		外	早稲田大学	選 2	1933	1936. 3	1933-1935			①②
19	韓恒久	奉天「満」		外	明治大学	選 3	1933	1936. 3	1933-1935			①②

20	周吉彰	山西		外	北京大学	選 1	1934		1934-1935	1935		①②
21	周天驕	浙江		外	早稲田大学	官 3	1934	1937. 3	1934-1936			①②
22	康福詵	山西		外	北京朝陽大学	選 3	1934		1934-1937	1937		①②
23	范希陶	江西		外	東京高師	官 3	1934		1934-1936			①②
24	羅慎獨	江西		外	広島高師	官 5	1934		1934-1941	1938～		①②
25	龐世富	奉天「満」		外	満洲法政学院	選 3	1934	1937. 3	1934-1936			①②
26	馬慶驥	奉天「満」		外	東京高師		1934		1934			①②
27	劉　芳	吉林「満」		外	東京高師		1934	1938. 4	1934-1938	1935		①②
28	張廷蘭	河北		本	一高	官 4	1935		1935-1941	1938～		①②
29	王天民	奉天「満」		本	三高	選 3	1935	1938. 3	1935-1937			①②
30	戴劭德	奉天「満」		本	三高	選 3	1935	1938. 3	1935-1937			①②
31	憲　容	奉天・吉林「満」		本	京大経	選 1	1935	1938. 3	1935-1937	1937	経済学士，卒業後法学部に	①②
		安東「満」		大	京大法・経				1938			①
32	徐志新	吉林「満」		本	八高	満鉄 1 官 2 公 1	1935	1938. 3	1935-1937		昭和 12 年度復費（官・公）	①②
33	李慶億	吉林「満」		本	一高	選 3	1935	1938. 3	1935-1937			①②
34	梁綖武	山西		外	北平清華大学		1935		1935			①②
35	劉行恂	江西		外	東京高師		1935		1935			①②
36	詹鼎文	安徽		外	安徽大学		1935		1935			①②
37	揚廼儒	陝西		外	北平朝陽大学（学院）		1935	1938. 3	1935-1937			①②
38	賈萬一	山東		外	国立北平大学		1935		1935-1941	1938～		①②
39	楊任嚴	湖南		外	明治大学		1935		1935-1936	1935		①②
40	尹克謙	江西		外	上海大夏大学		1935		1935-1941	1938～		①②
41	余春光	広東		外	北平朝陽学院		1935		1935-1936			①②
42	劉光魁	山西		外	北平朝陽大学（学院）		1935		1935-1941	1938～		①②
43	劉兆篁	奉天「満」		外	明治大学		1935		1935-1936			①②
44	張俊德	吉林「満」		外	北平朝陽大学（学院）		1935	1938. 3	1935-1937			①②
45	金鴻志	吉林「満」		外	北平朝陽大学（学院）		1935		1935-1936			①②
46	鮑紹齊	広東		本	一高	選 4	1936	1940. 3	1936-1939			①②
47	馬家偁	河北		本	三高	公 3 選 1	1936	1940. 5	1936-1939	1938-1939		①②
48	胡煥仁	広東		本	一高	選 1	1936		1936-1937			①②
49	柳嶽生	湖南		本	八高	官 3	1936		1936-1941	1938～		①②

50	趙星元	奉天「満」		本	一高	官 3	1936	1939. 3	1936-1938			①②
51	張興漢	奉天「満」		本	一高	選 2	1936	1939. 3	1936-1938			①②
52	周明官	奉天「満」		本	一高	選 2	1936	1939. 3	1936-1938			①②
53	陳　鵬	福建		外	朝陽学院		1936		1936			①②
54	史惠康	浙江		外	明治大学		1936		1936			①②
55	姜季(秀)辛	湖北		外	武昌師範大学		1936		1936			①②
56	高化臣	山東		外	北平中国学院(大学)		1936		1936-1941	1938～		①②
57	關世禎	河北		外	北京大学		1936		1936-1941	1938～		①②
58	李炳堃	江蘇		外	北京大学		1936		1936-1941	1938～		①②
59	任宗堯	山東		外	北平中国学院		1936		1936-1941	1938～		①②
60	夏輝(夢幻)	江蘇		外	暨南大学		1936		1936-1941	1938～	[旧名夏夢幻]	①②
61	張景聲	奉天「満」		外	朝陽学院		1936		1936-1937	1937		①②
62	孫浩善	奉天・関東州「満」		本	一高	官 3	1937	1940. 3	1937-1939			①②
63	王宏文	吉林「満」		本	一高	官 3	1937	1940. 3	1937-1939			①②
64	陸欽参	江蘇		外	北平朝陽大学		1937		1937-1939			①②
65	周　正	山西		外	北平朝陽大学		1937		1937-1941	1938～		①②
66	李尚文	錦州「満」		外	北平朝陽大学		1937		1937			①②
67	魏丕智	奉天・関東州「満」		外	早大専門部	選 2 官 1	1937	1940. 3	1937-1939			①②
68	趙息黄	濱江「満」		外	明治大学	官 2	1937		1937-1939	1939		①②
医学部　20 名*												
1	李維民	吉林		専	奉天南満医学堂	官 2	1928		1928-1931		1928 年(医学部内教科室医員介補)	①②
2	陳禮節	湖北	医	本	一高	補 1 選 3	1932	1936. 3	1932-1935			①②
				副	京大医		1936		1936			①
				大	京大医	公 2	1936. 4		1936-1942	1938～	[内科学]	①②
3	蔡聯歡(女)	広東	微・免	専	大阪女子高医専	選 3	1933. 9		1933-1936			①②
			微	副			1937		1937-1940	1938～		①
4	劉士琇	安徽	眼	専	北平大学医学院		1934		1934			①②
5	冷伯華	湖北	医	本	一高	公 4	1935		1935-1942	1938～		①②

6	盧士謙	奉天「満」	医	本	一高	選 3	1935	1939. 3	1935-1938			①②
		関東州「満」	内	研	京大医	官 1	1939. 4		1939-1940		【研究科】	①③
				大	京大医		1942. 4		1942-1943		［内科学，微生物学］	②③
7	陳万居	福建	医	本	一高	選 4	1936	1940. 3	1936-1939			①②
			内	副	京大医	選 1 補 1	1940		1940-1941			①
8	蘇景明	福建	医	本	一高	選 2	1936	1940. 3	1936-1939			①②
			内	副	京大医				1940			①
9	蘇景陽	福建	医	本	一高	選 2	1936	1940. 3	1936-1939			①②
			外	副	京大医				1940			①
10	王和成	浙江	医	本	一高	選 4	1936	1940. 3	1936-1939			①②
			外	副	京大医	補 1	1940		1940-1941			①
		浙江・河北		大	京大医	補 2			1943-1944			①
11	張秀信	福建	医	本	一高	選 2	1936		1936-1937			①②
12	郭文宗	奉天「満」		大	満洲医大	選 1	1936		1936-1937		［衛生学］	①②
13	李瑞珍	福建	医	本	一高	選 1	1937		1937			①②
14	林坤義	福建	医	本	一高	選 1	1937		1937-1942	1938～		①②
15	夏傳(傳)汾	浙江	医	本	一高		1937		1937-1942	1938～		①②
16	楊開濟	四川	医	本	一高	選 3 補 1	1937	1941. 12	1937-1941			①②
17	邵徳彦	奉天・関東州「満」	医	本	一高	官 3	1937		1937-1940			①②③
		関東州「満」	内	大	京大医		1942		1942			③
18	趙英奇	吉林「満」	医	本	一高	官 4	1937. 4	1941. 3	1937-1940			①②③
			外	大	京大医		1941. 4		1941-1942			③
19	杜勤書	山西		専	井州学院		1937. 3		1937			①②
20	何茂芝	広東	薬	本	一高	選 1 公 1 補 1	1939	1941. 12	1939-1941		理学部から転入［薬学科］	①②
＊ 1927 年の日華学会『名簿』に学部の明示されていない者が収録されている。医学部付属機関に所属している章志青（附属医専），王琨（付属薬専）と袁愈琦（附属外科病院）の 3 名である。												
工学部　40 名												
1	史殿昭	安徽	土木	本	八高	補 2	1927. 4		1927-1930			①②
2	王作述	奉天	採鉱冶金	本	佐賀高校		1927. 4		1927-1928		1929 年経済へ転学部	①②
3	李承業	遼寧	採鉱冶金	本	七高	官 2	1929. 4	1932. 3	1929-1931			①②
4	袁世安	遼寧・奉天	採鉱冶金	本	福岡高校	官 1 補 1	1929. 4	1933. 3	1929-1932			①②
5	趙葆謙	遼寧・奉天	採鉱冶金	本	佐賀高校	官 2 選 1	1929. 4	1933. 3	1929-1932		卒業後法学部へ	①②

6	田時雨	四川	採鉱冶金	本	一高		1929. 4		1929		1930 年理へ転学部	①②
7	王世豊	吉林「満」	採鉱冶金	本	八高	官 2	1931	1934. 3	1931-1933			①②
				大	八高	選 2 満鉄 1	1934. 3		1934-1935		［採鉱学］1935 復費：選抜（外ニ満鉄奨励金アリ）	①②
8	白玉衡	吉林「満」	採鉱冶金	本	水戸高	官 3	1932	1935. 3	1932-1934			①②
				大	水戸高				1935-1936		［応用地質鉱物］	①②
9	曹　政	江西	工化	外	上海大夏大学理学院	選 3	1934		1934-1941	1938～		①②
10	易　麒（麟）	湖北	土木	外	河北工業大学		1934		1934-1941	1935, 1938～		①②
11	徐（餘）蔭椿	奉天「満」	機械	外	天津河北工業学院	選 3	1934		1934-1937			①②
12	王運實	浙江	土木	本	八高		1935	1938. 3	1935-1937			①②
13	林紀方	四川	工化	委	上海大同大学		1935		1935		委託生から外国学生に	①②
			工化	外	上海大同大学	選 1			1936-1941	1938～		①②
14	李樹森	奉天「満」	機械	委	一高	選 4	1935	1940. 3	1935-1939			①②
15	張玉田	山東	土木	本	一高	選 3	1936	1939. 3	1936-1938			①②
				大	一高	選 2	1939		1939-1940		［鉄道工学］	①②
16	金長衡	奉天「満」	土木	本	三高	官 1	1936		1936-1937			①②
17	林松林	福建	機械	本	一高	選 2	1936		1936-1937			①②
18	何澤明	山西	採鉱冶金	本	一高	選 3	1936	1939. 3	1936-1938			①②
				大	京大工	選 2 補 1	1939		1939-1941		［鉄鋼ノ脱燐脱硫方法ニ就テ］	①②
19	胡靄霽	河北	電気	本	一高	選 4	1936	1939. 3	1936-1938			①②
20	楼享達	浙江	工化	本	一高		1936	1939. 3	1936-1938			①②
				副	京大工	官 1	1940		1940-1941			①
21	關振鐸	吉林「満」	機械	本	一高	官 2	1936		1936-1938			①②
22	李開棵	広東	工化	選	中山大学		1936		1936			①
23	方錫嘉	広東	工化	選	上海復旦大学		1936		1936		選科生から外国学生に	①②
			工化	外			1937		1937-1941	1938～		①②
24	彭風周	広東	土木	選	中山大学				1936			①
25	廖捷祥	広東	工化	外	中山大学		1936		1936-1941	1938～		①②
26	劉盛全	安徽	土木	外	北洋大学		1936		1936-1941	1938～		①②

27	張銑生	広東	電気	外	中山大学		1936		1936-1941	1938～		①②
28	于開（關）泉	濱江「満」	電気	研	ハルビン工大		1936		1936-1937		研究（補助）員	①
29	楊剛和	河北	土木	本	一高	選 1	1937		1937-1941	1938～		①②
30	高袞父	雲南	機械	本	一高	選 1	1937		1937-1941	1938-1939 と 1941		①②
31	鄭宗興	広東	機械	本	一高	選 3	1937	1940. 3	1937-1939			①②
				副	京大工	選 1 補 1	1940		1940-1941			①
32	林伊源	広東	工化	本	一高	選 1	1937		1937-1941	1938～		①②
33	劉崇果	河北	工化	本	一高	公 3 選 1 補 1	1937	1941. 12	1937-1941	1938-1939		①②
34	謝有徳	広東	電気	本	一高		1937	1941. 12	1937-1941			①②
35	沙錫敏	奉天「満」	電気	本	一高	官 1	1937		1937		1938 年農へ転学部	①②
36	賈永昌	濱江「満」	土木	選	ハルビン工大		1937		1937-1938			①②
		濱江「満」	土木	外	ハルビン工大		1939	1940. 3	1939		1939 年（三年生）	①②
37	閻承勤	奉天「満」	建築	選	仙台高工		1937		1937			①
38	葉康民	広西	工化	外	広西大学		1937		1937-1941	1938～		①②
39	李有金	江西	採鉱冶金	外	江西省立工業大		1937		1937-1941	1938～		①②
40	呂基裕	江西	電気	嘱	明治専門	官 1	1937. 4		1937-1941	1938～		①
文学部　43 名												
1	馬貴臣	広東	哲	本	六高	官 2 補 1	1927. 4	1931. 3	1927-1930			①②
2	沈起予	四川	哲	本	三高	官 2	1927. 4		1927-1930			①②
3	李亞農	四川	文	本	三高	官 2	1927. 4		1927-1930			①②
4	羅　濬	湖南	哲	本	三高		1928. 4		1928-1929			①②
5	張源祥	安徽	哲	本	一高・京大経	補 1	1928. 4	1931. 3	1928-1930		経済学士	①②
				大	京大経・文	補 1			1931		経済学士・文学士［音楽美術］	①②
				大	京大経・文など		1933. 4		1933-1942		［音楽美学］	①②
				大	一高・京大経				1944			①
6	夏文運	奉天	哲	本	広島高師	官 1	1929. 4	1932. 3	1929-1931			①②
7	忻去僞	浙江	史	本	八高	官 2	1930		1930-1932	1932		①②
8	趙萬斌	遼寧・奉天	文	本	六高	官 2	1930		1930-1932	1932		①②
9	査士元	浙江	文	選	上海東亜東文書院		1930		1930			①②
10	呉繩海	雲南	史	本	三高	補 2	1931	1934. 3	1931-1933			①②
				大	三高		1934		1934-1935	1935	［雲南地方ノ開発史］	①②
11	林　琦	広東	文	本	三高	官 1	1931		1931-1932	1932		①②

12	丁士選	河南	史	外	北京師範大学予科	補 1	1931		1931-1932			①②
			文・史	外	北平師範大学		1936		1936-1937		4 年後の再入学	①②
13	李南香	江蘇	史	外	北平中法大学	官 1	1931		1931-1934	1932		①②
14	陳應荘	湖南	哲	外	大正大学	官 1	1932		1932-1935			①②
15	龍發甲	江西	哲	外	東京高師	官 3	1932		1932-1936	1935		①②
16	袁嶽齡	河南	哲	外	東京高師		1932		1932			①②
17	胡運安	江西	哲	外	東京高師	官 3	1933	1936. 3	1933-1935			①②
18	張秀勤	湖南	哲	外	上海群治大学		1933		1933-1936			①②
19	呉廷璆	浙江	史	外	北京大学	選 2	1933		1933-1935			①②
20	周大受	江西	史	外	南京中山大学	官 4	1933		1933-1936			①②
21	劉國埠	奉天「満」	哲	外	東京高師	選 2	1933		1933-1935			①②
22	張　宜	湖南	哲	外	北平朝陽大学	官 2	1934		1934-1937			①②
23	李續綱	河北	哲	外	東京高師	選 2	1934		1934-1936		『一覧』には卒の記録なし	①②
		河北	哲	嘱	北平師範大学・京大文		1937. 4		1937-1940	1938～		①
24	梁希杰	湖南	史	外	復旦大学	官 4	1934		1934-1942	1938～		①②
25	朱孔澤	江西	文	外	東京高師	官 6	1934		1934-1942	1938～		①②
26	董家鼎	吉林「満」	哲	外	東京高師	選 3	1934	1938. 3	1934-1937			①②
27	楊文壽	江蘇	史	本	広島高師	官 4	1935		1935-1942	1938～		①②
28	王士初	奉天「満」	文	本	一高	官 3	1935		1935-1938	1938～		①②
29	儲元西	江蘇	哲	外	南京中央大学	選 1	1935		1935-1937			①②
30	李　彭	湖北	史	外	武昌中山大学	官 3	1935		1935-1942	1938～		①②
31	儲安平	江蘇	文	外	南京中央大学		1935		1935			①②
32	鐘鼎文	安徽	文	外	北平大学		1935		1935-1936			①②
33	范湯美	江蘇	文	外	中国公学大学		1935		1935-1936			①②
34	張敬亭	山東	哲	外	北平師範大学	官 1	1936		1936-1942	1938～		①②
35	丁廷楯	江蘇	哲	外	上海復旦大学		1936		1936-1942	1938～		①②
36	楊硯零	湖南	哲	外	専修大学大専門部		1936		1936-1937			①②
37	趙徳栗	山東	文・史	外	北平師範大学		1936		1936-1942	1938～		①②
38	王　基	山西	史・文	外	北京大学	公 1 官 2	1936		1936-1942	1938～		①②
39	王慶祓	湖南	史・文	外	北平師範大学		1936		1936-1942	1938～		①②
40	魏敷訓	山東	史・文	外	北京大学	公 1 官 1 選 1	1936		1936-1939			①②
41	蘇瑞成	河北	文	外	北京大学		1937		1937			①
42	李冠英	奉天「満」	哲	外	東京高師		1937		1937-1939			①②
43	都子垕	濱江・牡丹江「満」	史	外	広島高師	選 3	1937	1940. 3	1937-1939			①②

理学部　22 名												
1	陶慰孫（女）*	江蘇		副	東京女高師	補 1 特 1			1928–1929		アメリカで修士号取得	①
				大	東京女高師	特 1 補 1			1930–1931		1932. 7 博士号取得	①②
2	田時雨	四川	物	本	一高	補 3	1930	1933. 3	1930–1932		工学部から転入	①②
				副	京大理	選 2	1933. 4		1933–1935			①
3	申健淵		数	本			1930		1930			②
4	繆端生	江蘇	動	選	東京高師		1932		1932			①②
			動	委		選 2	1932	1935. 3	1933–1935			①②
5	李漢英	奉天「満」	化	本	一高	選 3	1933	1936. 3	1933–1935			①②
				大	京大理	選 2	1936		1936–1937		［有機化学］	①②
				嘱	京大理				1938			①
6	劉棠瑞	江西	植	委	広島高師	官 3	1933	1936. 3	1933–1935			①②
7	彭風潭	江西	動	委	広島高師	官 4	1933	1937. 3	1933–1936			①②
8	夏以農	安徽	数	委	広島高師	官 6	1933		1933–1941	1938～		①②
9	王石岩	安徽	宇宙物	本	七高		1934		1934			①②
10	李樹林	黒竜江・濱江「満」	化	本	三高	選 3	1934	1937. 3	1934–1936			①②
11	諶亜遠	江西	化	委	東京高師	官 3	1934	1937. 3	1934–1936			①②
12	胡　纘	江西	植	委	北平中国大学		1934	1937. 3	1934–1936			①②
13	李清才	江西	地質鉱	委	明治専門	官 1	1934	1937. 3	1934–1936			①②
14	寗三思	湖南	化	委	湖南大学		1934		1934–1935			①②
15	寗一先	湖南	動	委	北平中国大学	官 4	1934		1934–1941	1938～		①②
16	張順理	湖北	数理	委	武昌中山大学		1934		1934		（数理学）	①②
17	黄友謀	広東	物	本	三高	官 5	1935		1935–1941	1938～		①②
18	陳学曾	河北	物	委	一高	公 5 官 1	1935	1941. 12	1935–1941	1938–1940		①②
19	陳永昌	浙江	地	委	同済大学		1936		1936		（外特生）［委託生］	①②
20	熊大仁	江西	動	委	上海復旦大学		1936		1936–1941	1938～		①②
21	何茂芝	広東	物	本	一高	公 2	1937		1937–1938	1938	1939 医へ転学部	①②
22	王肇模	広東	動	委	南京中山大学		1937		1937–1941	1938～		①②
＊拙論「帝国大学における中国人女子留学生（1924–1944 年）――データ解読と事例分析――」（神奈川大学人文学研究所《人文学研究所報》No. 68，2022 年，54，58 頁）を参照。												
経済学部　80 名												
1	彭世亮	湖南		本	七高	官 2	1927. 4	1931. 3	1927–1930			①②
2	陳燾之	直隷・河北		本	六高	官 1 補 2	1927. 4		1927–1930			①②
3	劉競武	江西		本	六高	官 4	1927. 4	1931. 3	1927–1930			①②
4	夏協舫	湖北		本	五高	官 3	1927. 4	1930. 3	1927–1929			①②
5	鄧世英	江西		本	七高	官 2 補 2	1927. 4	1931. 3	1927–1930			①②
6	崔正儒	奉天		本	佐賀高校	官 2	1927. 4	1930. 3	1927–1929			①②

7	何孝怡	福建		外	上海東亜同文書院	公2補1	1927.4	1930.3	1927-1929			①②
8	袁　濤	湖北		外	上海東亜同文書院	公2補2	1927.4		1927-1930			①②
9	漆相衡	四川		本	六高	官1	1928.4		1928-1930			①②
10	王根福	江蘇		本	五高	補2	1928.4	1931.3	1928-1930			①②
11	張祖德	奉天・遼寧		本	五高	官1	1928.4	1931.3	1928-1930			①②
12	周憲文	浙江		外	上海東亜同文書院	補2	1928.4		1928-1930			①②
13	洪水星	福建		外	上海東亜同文書院	補2	1928.4	1931.4	1928-1930			①②
14	陳作雲	福建		外	上海東亜同文書院	補2	1928.4		1928-1930			①②
15	陳　道	江蘇		外	上海東亜同文書院	補1	1928.4		1928-1930			①②
16	周　復	江西		聴			1928.4		1928-1929			①②
17	王作述	奉天・遼寧		本	佐賀高校	官3公1	1929.4	1933.3	1929-1932	1932.7	工学部から転入　中華→「満」	①②
18	曹鼓晨	奉天・遼寧		本	佐賀高校	官2	1929.4	1933.3	1929-1932	1932.7	中華→「満」	①②
19	査士驥	浙江		外	上海東亜同文書院	補4	1929.4		1929-1933			①②
20	陸善熾	浙江		外	上海東亜同文書院	補3	1929.4		1929-1931			①②
21	龍正中	四川		本	六高	補2官1	1930	1934.3	1930-1933			①②
22	史邦燮(燮)	安徽		本	八高	補3官1	1930	1934.3	1930-1933			①②
23	張澤溥	遼寧・奉天		本	六高	官2補1	1930	1933.3	1930-1932		中華→「満」	①②
24	劉鴻萬	湖北		本	三高	官2	1931	1934.3	1931-1933			①②
				大	三高				1934-1935		［社会統計］，1935年（在東京）	①②
25	于百溪	雲南		本	三高	官2	1931	1934.3	1931-1933	1931.11		①②
26	簫民濤	湖北		外	長崎高商	補1選1	1931	1934.3	1931-1934			①②
				大	長崎高商				1934-1935	1935	［中華民国幣制問題］	①②
27	譚崇夏	広東		本	水戸高等学校	官2	1932	1935.3	1932-1934			①②
28	憲　容	河北・吉林・奉天		本	成城高		1932	1935.3	1932-1934		中華→「満」	①②
29	楊禮恭	安徽		外	明治大学	官4	1932		1932-1935			①②
30	張菊生	湖北		外	長崎高商	補2給費1	1932	1935.3	1932-1934			①②
31	李　洸	広東		本	八高	官5	1933・1935	1938.3	1933-1937			①②
32	馬季唐	雲南		本	二高	官1選2	1933	1936.3	1933-1935			①②

33	邱成仁	吉林「満」		本	一高	官 3	1933	1936. 3	1933-1935			①②
34	燕庚奇	奉天「満」		本	一高	選 3	1933	1936. 3	1933-1935			①②
35	陳壽琦	安徽		外	呉松中国公学	官 3	1933	1937. 3	1933-1936			①②
				大	京大経				1937-1939	1937～	［貨幣及貨幣制度］	①②
36	符　彪	広東		外	上海東亜同文書院	選 3	1933	1937. 3	1933-1936			①②
37	李際閔	湖南		外	早稲田大学	官 2	1933		1933-1935			①②
38	李士杰	江西		外	東京高師	官 2	1933		1933-1935			①②
39	李蔭南	広東		外	明治大学				1933			①
40	徐長生	奉天「満」		外	長崎高商	選 3	1933		1933-1935			①②
41	徐宗理	奉天「満」		外	東京高師	選 3	1933		1933-1935			①②
42	黄伯雄	広東		本	三高	官 3	1934	1937. 3	1934-1936			①②
43	勞蔭予	広東		本	三高	官 5	1934		1934-1941	1938～		①②
44	劉純白	湖北		外	長崎高商	給費 1 公 2	1934	1937. 3	1934-1936			①②
45	劉　振	湖北		外	武昌中山大学	選 2	1934	1937. 4	1934-1937			①②
46	周光琦	雲南		外	東京高師	選 3	1934	1937. 4	1934-1937			①②
47	王沿津	江蘇		外	上海東亜同文書院	選 3	1934	1937. 4	1934-1937			①②
48	王衍臻	山東		外	北平民国大学	選 2 官 3	1934		1934-1941			①②
49	周　耀	江蘇		外	上海光華大学		1934		1934			①②
50	薛錫三	奉天「満」		外	ハルビン法政大学	選 2	1934	1937. 4	1934-1937			①②
51	丁志方	奉天・吉林「満」		外	成城高		1934	1937. 4	1934-1937			①②
52	廖濟寰	湖南		委	一高	官 1	1935		1935			①②
		湖南		本	一高	官 5	1936		1936-41	1938～		①②
53	李世維	奉天「満」		委	一高	官 3	1935		1935			①②
				本	一高	官 3	1936	1938. 3	1936-1937			①②
54	李介夫	河北		外	国立四川大学		1935・1937	1940. 3	1935-1939	1938		①②
55	柯　瀛	浙江		外	上海中国公学大学	公 4	1935		1935-1941	1938～		①②
56	劉作述	湖南		外	広島高師		1935		1935-1941	1938～		①②
57	麥兆初	広東		外	国立中山大学		1935		1935-1941	1938～		①②
58	韓漢藩	広東		外	法政大学予科		1935		1935			①②
59	冷鐵錚	奉天「満」		外	北平中国大学	選 1	1935		1935-1937			①②
60	張素康	浙江		外	北平中国学院	公 2	1935	1938. 3	1935-1937			①②
61	趙如珩（衍）	江蘇		外	国立暨南大学		1935	1938. 3	1935-1937			①②
62	楊永戒	広東		本	一高	選 3	1936		1936-1938			①②

63	劉紹福	奉天「満」		本	一高	選 3	1936	1939. 3	1936-1938			①②
64	洪錫九	奉天「満」		本	一高	官 4	1936		1936-1939	1938		①②
65	劉文敬	河北		外	長崎高商				1936			①
66	盧昌明	湖北		外	長崎高商				1936			①
67	孫禮榆	浙江		外	早大専門部	官 3	1936		1936-1941	1938～		①②
68	熊懐若	広東		外	北平中国公学		1936		1936-1941	1938～		①②
69	陳国珠	奉天「満」		外	広島高師				1936			①
70	王緒智	奉天「満」		外	北平大学		1936・1937		1936-1942	1938～		①②
71	文蔚之	奉天「満」		外	北平朝陽学院（大学）	官 1	1936	1939. 3	1936-1938			①②
72	喬傳臚	奉天「満」		外	山口高商	選 3	1936	1939. 3	1936-1938			①②
73	朱寿春	奉天「満」		外	東京高師	選 2	1936	1939. 3	1936-1938			①②
74	孫連璧	奉天「満」		外	早大専門部	選 3	1936	1940. 3	1936-1939			①②
75	劉乃庚	江西		本	一高	選 1	1937		1937-1941	1938～		①②
76	盛毓度	江蘇		本	成城高校		1937		1937-1942	1942		①②
77	白永興	河北		外	南開大学		1937	1940. 3	1937-1939			①②
				大	京大経		1940		1940-1941		［農業経済学］	①②
78	周振武	江西		外	東京高師	官 3	1937		1937-1941	1938～		①②
79	尤徳順	奉天・関東州「満」		外	早大専門部	選 3	1937	1940. 3	1937-1939			①②
		関東州「満」		大	京大経	貸 1	1940. 4		1940-1941		［東亜経済理論］	①②③
80	朱永寿	奉天・関東州「満」		外	早大専門部	選 1	1937	1940. 3	1937-1939			①②
農学部　16 名												
1	陳錫鑫	江西	農	本	六高		1927. 4	1930. 3	1927-1929			①②
				大	六高	補 2			1930-1931		［園芸学］	①②
2	酆裕洹	湖南	農	選			1927. 4		1927		1927 年［選科］	②
			農	本	東京高工		1927	1930. 3	1928-1929		1929 年本科［昭和 2 年入学］	①②
3	田毓智	山西	農		不明		1927. 4		1927-1928			①
4	田作霖	山西	農林経	本	七高造士館	補 2	1929	1932. 3	1929-1931			①②
		湖南		大	七高	補 1			1932-1933		［農業金融及産業組合］	①②
5	易希陶	湖南	農林生	本	一高	官 2 選 1	1930	1933. 3	1930-1932			①②

6	忻去邪	浙江	農林生	本	東京高師	官 1	1931		1931-1932	1931. 1		①②
7	邢伯昌	遼寧・奉天	林	本	六高		1931		1931-1932	1931. 7		①②
8	劉克済	吉林「満」	農林生	本	六高	官 3	1935	1938. 3	1935-1937			①②
9	于景讓	江蘇	農林生	外	東京高師		1935		1935-1936			①②
			農林生	本			1935		1937-1942	1938～		①②
10	趙厲師	綏遠	農林経	外	北京大学	官 1 選 2	1935		1935-41	1938～		①②
11	李知慎	奉天「満」	農	本	一高	官 3	1936	1939. 3	1936-1938			①②
12	王樹春	奉天・関東「満」	農	本	三高	官 2	1936	1939. 3	1936-1938			①②
13	呂中樞	龍江「満」	農	外	北平農学院		1936		1936-1937			①②
14	孫　元	陝西	農	外	金陵大学		1937		1937-1941	1938～		①②
15	姜　笙	吉林「満」	農	外	東北大農学院（工学院）	官 1 選 2	1937	1940. 3	1937-1939			①②
16	沙錫敏	吉林「満」	農	本	一高	官 4	1938. 4	1941. 12	1938-1941		工学部から転入	①②③

出典：以下の資料により作成。
①日華学会編『留日中華学生名簿』各年版，昭和 2-18（1927-1944）年。
②京都帝国大学『京都帝国大学一覧』各年版，昭和 2-17（1927-1942）年。
③満州国駐日大使館『満洲国留日学生録』各年版，昭和 15-18・康徳 7-10（1940-1943）年。